

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 朽網 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

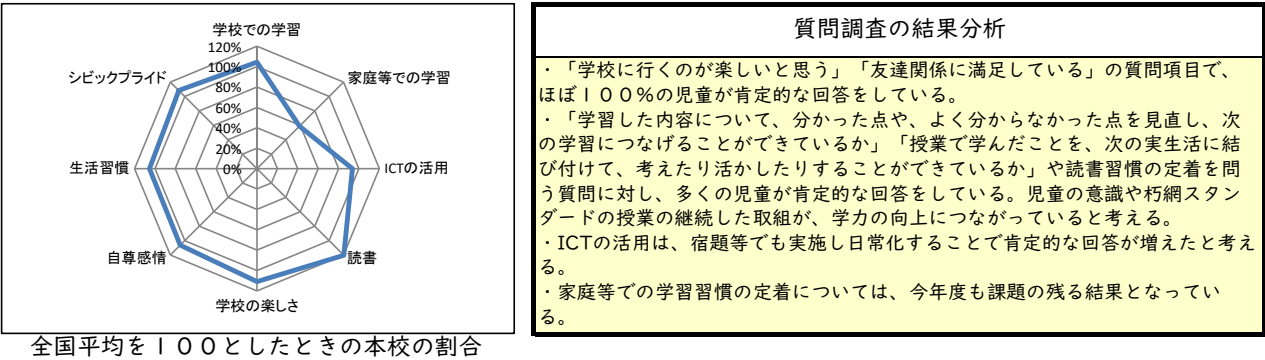
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を上回っている。無回答率が低く、記述式の回答でも正答率が高い結果となっている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	文章の構成や書き表し方を工夫し、目的や意図に応じて書いたり、適切に書かれている文章を選択する間で、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う間で課題が見られる。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全項目で全国平均を上回る結果となった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	数と計算領域における基本の計算力がよく身に付いている。	
	努力が必要な問題	数直線上の分数を捉えることや、百分率を、倍を使って捉え直し表現することを問う問題で課題が見られる。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を上回る結果となった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	思考・判断・表現の問題で、既習の学習と関連付けて考える力が付いている。	
	努力が必要な問題	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能を問う問題で課題が見られた。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・今後も学校全体で教科スタンダードの授業の定着と授業改善に取り組み、児童が「わかった」「おもしろい」と思える授業づくりを進めていく。
- ・AIドリルアプリを活用し、基礎・基本の定着や個別最適な学びを実施する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習の充実に向けて、学年の目安時間（低学年20分、中学年40分、高学年60分以上）の定着を図ると同時に家庭学習ウィークの取組や自主学習の取組を継続し、子どもに自主学習の取組例を紹介し称賛することを通して、自主学習の内容を深め広げていく。また、その大切さを周知し、家庭と連携した取組を進めていく。